

事業所における自己評価結

公表: 令和6年2月 日

事業所名 児童発達支援センタークムレ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	30	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス以外の集団療育室を使用したり、グループを分けて活動したりしている</li> <li>・棚や衝立を使用する等クラスのレイアウトを工夫している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基準上は適切ではあるが、子どもの人数や姿に応じて、活動人数や活動を柔軟に対応していく</li> <li>・職員の支援の質向上を図る</li> </ul>
	2	職員の配置数は適切である	23	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター内で職員配置の調整や運営を協力して行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員不足を感じているという意見は多い</li> <li>・事業所だけでなくエリア内での協力体制を図っていく</li> <li>・職員間で支援の組み立てや支援の提供方法等認識を合わせながら運営していく</li> </ul>
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	28	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実物での提示やカード提示、スケジュール提示等で移動や場所、これから行うことや終わりを伝えている。</li> <li>・パーテーションやロッカー等で空間を分けて構造化の工夫をしているが、地域の生活を意識した細か過ぎない構造化に取り組んでいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子棟は段差が多く、設備の改善が必要であるという意見が複数ある。</li> <li>・医ケア児も含め同じ空間で過ごせるように工夫しているが、支援のしにくさがある。</li> <li>・子ども達が安心・安全に過ごすことが出来るように、設備改善をする箇所、工夫して活用する箇所等について検討し対応していく。</li> </ul>
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	28	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の掃除や整理整頓を行っている</li> <li>・月1回は施設全体の環境整備を行い、普段出来ない箇所の掃除を行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスや活動室内とそれ以外(廊下・トイレ)の温度差が激しい。</li> <li>・いつでも使用できるフリースペースがあれば良いと感じるが、現状は難しいため、活動部屋を万遍なく有意義に使用できるようにする</li> </ul>
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	32	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスノートにて共有している。クラス会議にて目標設定や振り返りを実施している。会議には嘱託職員、専門職も参加している。</li> <li>・リーダー会や職員会議、クラス会議等を実施している。</li> <li>・正規嘱託全員対象に目標管理面談を行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の業務の忙しさから出来ていないこともある。</li> <li>・決定事項を聞くのみである。</li> <li>・改善・検討事項は複数で話し合っ決めており、職員個人の考えだけでなく広い視点の中にも子ども軸で考える視点で考えられるようにしていきたい</li> </ul>
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	35	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見を共有し、改善すべきところは改善している</li> <li>・意見箱の設置など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年アンケートを実施し、業務改善につなげていく</li> </ul>
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	34	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆめばるやクムレのホームページで公開されている</li> <li>・クムレっこ便りに載せている</li> <li>・結果を保護者や職員へ伝えている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も事業所評価の意図等を職員全体へ周知すること、評価についても職員全体で確認できるようにしていく</li> </ul>

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	35	1	・令和3年度に受審している。	・再度全体に周知し業務改善に繋げていく。
9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	35	1	・階層別研修や事業所内研修、エリア研修を実施している。	・支援に繋がる研修が必要である。 ・支援について嘱託職員も学べる機会を作っていく。事業所内研修の内容を精査し実施していく。
10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	35	1	・職員同士で日々、子どもの姿やそれを取り巻く家族・地域のことなど、情報を共有していくように気をつけている ・課題整理表をもとに話し合っ作成している	・アセスメント、ニーズ把握、課題整理、計画書作成、支援実施のサービス提供プロセスを理解しながら行っていく
11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	34	2	・太田ステージ、遠城寺発達検査を使用している ・法人内のセラピストに入ってもらってコンサルを受けている	・身体の機能面や感覚のアセスメントができるツールや専門職を必要とする ・言語・理解面だけでなく、多角的視点でアセスメントできるツールや体制を整えていく
12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	35	1	・児童発達支援ガイドライン又保育指針に示された視点で、年間指導計画やガイドラインを当センター用に分かり易く立案されている	・児童発達支援ガイドラインや保育指針に明記されていることや、具体的支援との繋がりを職員全体で理解することに努め、支援や活動に繋げていく
13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	34	2	・担任やクラスが振り返りや修正する場を設けており、全体の周知もおこなっている	・支援計画を意識しながら、子どもに関わるようにはしているが、職員の動きが忙しくなると、意識が弱くなることもある。 ・職員配置や児の状況によって、沿えない、沿う余裕がない事のないように、活動内容を状況に応じて調整できる体制を全体で図る
14	活動プログラムの立案をチームで行っている	32	4	・クラスや行事担当で行う ・年次や全体で検討・調整したりしている	・チームで立案しているが、チーム内の経験やアイデアに左右されるため、より多くのアイデアが集まる工夫が必要 ・活動の計画を立てる時に、実行するまでの時間に余裕をもって相談するとか活動内容を伝えてくれたら、意見を言うことも出来る ・それぞれの職員の役割を明確にすることや計画→実行する際には事前説明やOJTを行っていく

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	33	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1ヶ月単位で活動を考えず1年を通しての最終目標を決めて日々の活動を設定し、積み重ねた上で発展していけるようにしている。</li> <li>・毎月クラス会議での話し合い</li> <li>・職員同士で、活動を振り返り、話し合う機会を持つようにしている。</li> <li>・季節を取り入れられるようにしている</li> <li>・クラスや年次での取り組みを工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節の行事などを意識することで、色々なアイデアをクラスだけではなくセンターで共有する。</li> <li>・玩具などがあまり変わっていない為、隣の保育園の玩具なども参考にクラスの玩具に変化をもたらしていく</li> </ul>
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	34	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児発管や担任の見解だけでなく、法人内のOTやSTの意見を取り入れた支援計画である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種連携を基本とした、児童発達支援計画にしていく</li> </ul>

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	34	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割分担と注意事項、前日の引継ぎが出来ていない時もあるので毎日必ず行うようにする。</li> <li>・毎日療育前に行い、確認している</li> <li>・朝の打ち合わせを、丁寧にしていくように心がけているが、他の業務で時間が短くなることもある。</li> <li>・立ててるデイリーを見て、分からないところは確認し合っている</li> <li>・朝礼やクラス朝礼で確認している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援開始時間と勤務開始時間が同じであり時間の確保が難しいため、前日の活動後に振り返りの時間を設ける</li> <li>・行事前になると打ち合わせ出来ない時もあるため、特に行事前は時間を決めて行う</li> <li>・職員全体ノートの書式や置き場所を変更し、必要な情報がすぐに把握できるようにする(環境面の工夫)</li> </ul>
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	30	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りが出来ない時にはクラスノートを通じて周知事項を伝え、職員は毎日、目を通すようにしている</li> <li>・特に嘱託職員は振り返りには参加していないが、翌日終礼記録は確認している</li> <li>・クラスノートで確認している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嘱託職員は直接の振り返りが行えない、又、クラスノート記入の時間の確保も難しい。クラス朝礼で前日の振り返りを行い、情報の共有を行うようにしていく</li> <li>・職員一人一人の意識を高めたり、クラスで気づいたことは声をかけていく</li> <li>・時間を決めて振り返りを、習慣化していくと共に分かり易い記録を残す(時間短縮)</li> </ul>
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	29	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その記録をいつでも見直せるようにクラスノートを活用していくと良いと思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録の仕方や視点に職員の差が出ないようにする</li> <li>・記録の内容が全体的に伝わっていないことがある為、記録の確認済を残すことを習慣にしていく</li> <li>・検証改善を意識した支援を展開する</li> </ul>
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	36	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週、毎月支援記録を作成している。その際に計画の見直しについても検討している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任以外が記入する事が無いため、視点が狭いため、他の意見を聞く機会を設ける</li> </ul>
	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	33	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催時には児発管や担任が参加している</li> </ul>	
関係機	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	35	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関、相談員、子ども相談センターなどと必要に応じて連絡を取り合っている</li> </ul>	
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	35	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科、訪問看護、相談支援専門員と情報共有をしている</li> <li>・教育については教育委員会と連携を図っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年に比べ、関係が薄い。情報共有ができていない</li> <li>・医療面においては看護師が中心となり機関連携していく体制作りが必要である 職種に応じた役割を明確にしていく</li> </ul>
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	35	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族を通して、医師の意見書指示書でのやり取りをしている。歯科、訪問看護、相談支援専門員と情報共有をしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族を通して情報などを医師と密に図れる体制を図っていく</li> </ul>

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
概 関 や 保 護 者 と の 連 携 関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	35	1	・書面や対面にて園や学校への引き継ぎや情報共有を行っている	・書面だけでなく互いの事業所の職員が、顔の見える体制になるように努める
	26	35	1	引き継ぎや保幼小連絡会に参加している	
	27	29	7	・市内児発センターとは自立支援協議会にて検討や情報交換を行っている ・発達障害者支援センター主催の研修に参加している	
	28	33	3	・法人内の保育園と交流や合同行事を開催している	・全ての年児で交流の機会はあるが、交流の時間を充実したものにしていくには、保育園との企画や事前段取りを徹底していく
	29	26	10	・管理者や児発管が参加している ・部会にて協議した事や決定した事を口頭や紙面にて周知している	・新任などの現場職員にも分かり易く伝え、全職員が周知理解できるようにする
	30	36	0	・ケアコラボで活動内容を写真や動画などで解りやすく見れるようになっている ・できたことだけでなく、発達状況や課題について、より共有していきたいケアコラボを通じてとか直接会話の中で共通理解を持つようになっている	
	31	33	3	・ペアトレや見学会、勉強会などを実施している	・園長や児発管、年次リーダーのみでなく、他の現場職員も参加・実践できるようにしていく
	32	33	3	・契約時の説明に加えて玄関に掲示していつでも閲覧できるようになっている	・伝え方の統一をしてほしい
	33	36		・実施できている	・保護者に説明を行い同意を得ているが、ガイドラインとの関連は保護者にはわかりにくいいため、伝える工夫が必要である

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	36		・相談された事は自分で判断せず他の職員にも必ず伝えるようにする ・懇談を通じて相談に応じたり、利用時に助言したり直接支援方法など見てもらっている	・若手の職員が多く、子育ての助言については、不十分なところがある ・保護者の方の気持ちに寄り添う傾聴の姿勢でやりとりをしていく
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	33	3	・家族会があり、見学会や勉強会を計画している。 又、家族会の行事などの参加に促している	・職員主体にはならない様にしているが、保護者同士の連携を図れる様に口添えなどをしていく
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	34	2	・職員が一人で解決できないこと返答に困ることは、園長や児発管、年次リーダーが積極的に出るようにしている。	・専門職の配置の要望に応えられていない ・保護者の方の要望により、事業所、法人で検討・対応できるようにしていく
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	36		・法人広報誌やクムレっこ便りの発信や外部などの関係する情報があれば掲示板にて発信している	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	36		・個人情報となるような大事な話は他の保護者が側にいない所でする、又、職員が事業所外で話に出さないように徹底している	・定期的に注意喚起しながら、個人情報の取り扱いを徹底していく
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	35	1	・子どもの発達や、保護者の気持ちを配慮しながら、皆が同じ方法で関わっていくようにしている。 ・児にはより分かり易く、伝わり易い方法を、日々の子どもの発達に合わせた表現方法で意思疎通を図るようにしている。 ・保護者に対しても、伝わりやすいように言葉を選んだり 伝達方法を口頭だけでなくケアコラボを通じて伝達したりしている	・返答や発信が遅れない様に、ケアコラボなどを細目に確認して、利用児や保護者の相談やセンターからの報告周知をスムーズに行えるようにしていく
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	28	8	・ボランティアを受け入れたり、保育園と合同で地域住民との行事に参加したりしている	・コロナ5類もあり、園内への行事やボランティアに積極的に参加して頂くよう仕向けていく
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	33	3	・敷地内にある3事業所で年間計画立案、実施前の想定・対応確認、実施後の振り返りを実施している	・マニュアルの見直し、活用、周知が必要。保護者への周知が不足している。 ・上記について担当やその他職員で実施していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	36	0	・毎月年間計画通りに実施をしている	・地域住民企業など、参加型の避難訓練を今後考えていく
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	36	0	・毎日の看護師ミーティングや朝礼終礼で周知している	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	44	36	0	・看護師、管理栄養士、児発管、担任を中心に周知して対応にあたっている	・早急な対応が必要な時には、多職種連携がすぐに図れる体制にしている
	45	36	0	・電子媒体になり、アカウントのない職員は確認しにくいいため、終礼や朝礼で周知している。家族にも周知、問題が発生した時には全体に周知し、気にかけるようにしている	・改善までは行いが、改善の検証ができていない為、委員を中心に検証できる体制を図る
	46	36	0	・研修や職員会議の議題にも挙げている ・一人で考え込まない様に朝礼でチームプレイを意識する体制を図っている	・虐待を研修以外にも日々振り返れる体制を図る(職員会議など)
	47	36	0	・クラス会議や職員会議等において、話し合いや検証を行っている ・切迫性、非代替性、一時性の三原則を基に話し合っている	・身体拘束を日々意識して発達支援や活動に取り組む体制を図る

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。